



岩本 武和教授近影

岩本 武和 教授 略歴

1957年6月22日広島県広島市生まれ

学 歴

- 1977年3月：灘高等学校卒業
- 1982年3月：早稲田大学政治経済学部経済学科卒業（経済学士）
- 1985年3月：京都大学大学院経済学研究科博士前期課程修了（経済学修士）
- 1988年3月：京都大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学
- 1999年3月：京都大学博士（経済学博士）

職 歴

- 1988年4月：東京外国語大学留学生日本語教育センター講師
- 1990年4月：静岡大学人文学部経済学科助教授
- 1993年4月：京都大学経済学部助教授
- 1997年4月：京都大学大学院経済学研究科助教授
- 1999年10月：京都大学大学院経済学研究科教授
- 2017年4月：京都大学公共政策大学院教授（経済学研究科教授を併任）
- 2020年4月：京都大学大学院経済学研究科教授
- 2021年4月：西南学院大学経済学部国際経済学科教授

大学での主な役職

- 2008年4月～2010年3月：
京都大学 教育研究評議員，京都大学大学院経済学研究科副研究科長
- 2009年4月～2010年3月：
経済学部経済学科長
- 2012年4月～2014年3月：
京都大学大学院経済学研究科附属プロジェクトセンター長
- 2013年4月～2014年3月：
京都大学入学試験実施委員会委員長
- 2014年4月～2016年3月：
京都大学 教育研究評議員，京都大学大学院経済学研究科長・経済学部長
- 2018年4月～2020年3月
京都大学 教育研究評議員，京都大学公共政策大学院連携研究部長・教育部長
- 2020年4月～2021年3月：
京都大学大学院経済学研究科附属東アジア経済研究センター長

所属学会

日本国際経済学会

幹事（1995年6月～1996年10月）

理事（1996年10月～2002年10月）

常任理事（2002年10月～2010年10月）

副会長（2010年10月～2012年10月）

会長（2012年10月～2014年10月）

顧問（2014年10月～現在）

経済学史学

日本金融学会

ケインズ学会

研究助成

2019年度：

京都大学教育研究振興財団研究活動推進助成「非伝統的金融政策とその正常化が国際資本フローを通じて新興国市場へ波及する効果」（研究代表者：岩本武和）

2017年度：

村田学術振興財団研究助成「世界金融危機後の先進国および新興国の資本フローに関する研究」（研究代表者：岩本武和）

2013年度～2015年度：

科学研究費補助金・基盤研究（C）「ユーロ圏における対外インバランスの拡大と調整メカニズムに関する研究」（研究代表者：岩本武和）

2010年度～2012年度：

科学研究費補助金・基盤研究（C）「評価効果による対外調整メカニズムに関する理論的・実証的研究」（研究代表者：岩本武和）

2010年度：

京都大学学術研究振興財団・在外研究短期助成「金融危機後のEUにおけるマクロプルーデンス政策に関する研究」

2005年度～2007年度：

科学研究費補助金・基盤研究（C）「国際資本移動のプロシクリシティに関する研究」（研究代表者：岩本武和）

2001年度～2002年度：

石井記念証券研究振興財団「アジアにおける円資金の有効利用に向けた証券決済システムの整備」（研究代表者：岩本武和）

2000年度～2001年度：

福井県大学等学術振興基金助成研究「新古典派経済学の体系的批判」（研究代表者：伊東光晴）

1999年度：京都大学経済学会出版助成

1994年度～1996年度：

科学研究費助成金・基盤研究（B）（2）「ケインズの総合的研究—新資料によるケインズ体系

の再評価」(研究代表者：瀬地山敏)

1993年度～1994年度：

文部省国際学術研究「環太平洋経済圏における日本-カナダ経済関係と役割に関する国際共同研究(アルバータ大学との共同研究)」(研究代表者：近昭夫)

社会的活動・貢献など

2019年4月～2020年3月：大学改革支援・学位授与機構認証評価委員

2018年4月～2020年3月：大学基準協会大学評価委員会大学評価分科会委員

2016年4月～現在：アジア太平洋研究所(APIR)上席研究員

2016年4月～2019年3月：アジア太平洋研究所(APIR)プロジェクト・リーダー

2012年6月～2013年3月：内閣府経済社会総合研究所

『『世界経済の構造転換が東アジア地域に与える影響』に関する研究会』委員

2010年10月～2011年3月：

ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(SOAS)客員研究員

2011年4月～2012年3月：

財務省財政総合研究所「国際的な資金フローに関する研究会」委員

2010年4月～2014年3月：

滋賀県立膳所高等学校「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)運営指導委員会」委員

2009年4月～2017年3月：京都大学交響楽団 音楽部長

2006年4月～2007年3月：日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員

1998年4月～2000年3月：大学入試センター出題委員

岩本 武和 教授 著作目録

単著

- ・『国際経済学 国際金融編』ミネルヴァ書房, 2012年9月.
- ・『ケインズと世界経済』岩波書店, 1999年10月.

共著

- ・『グローバル・エコノミー (第3版)』有斐閣, 2012年3月 (奥和義, 小倉明浩, 金早雪, 星野郁との共著).
- ・『岩波小辞典 国際経済・金融』岩波書店, 2003年7月 (阿部顕三との共編著).
- ・『グローバル・エコノミー (新版)』有斐閣, 2007年6月 (奥和義, 小倉明浩, 金早雪, 星野郁との共著).
- ・『グローバル・エコノミー』有斐閣, 2001年6月 (奥和義, 小倉明浩, 金早雪, 星野郁との共著).
- ・『基本現在経済学入門』有斐閣, 1997年10月 (大塚勇一郎, 永井進との共著).

翻訳

- ・『金融グローバル化の危機：国際金融規制の経済学』ジョン・イトウェル, ランス・テイラー 著 (伊豆久との共訳) 岩波書店, 2001年12月 (原著は, Eatwell, J. and L. Taylo, *Global Finance at Risk: The Case for International Regulation*, New York: New Press, 2000).
- ・『IMF 資本自由化論争』スタンレー・フィッシャー他著 (監訳, 伊豆久, 高橋信弘, 佐藤隆広との共訳) 岩波書店, 1999年9月 (原著は, Fischer, S., Cooper, R., Dornbusch, R. Garber, P., Massad, C., Polak, J. Rodrik, D., Tarapore, S., *Should the IMF Pursue Capital-Account Convertibility?*, Essays in International Finance 207, International Finance Section, Department of Economics, Princeton University, 1998).

学術論文

- ・「新常态下での中国の対外経済戦略—人民元の国際化, 一帯一路構想, およびアジアインフラ投資銀行—」『関西経済白書 2019』2019年4月.
- ・「中国からの資本流出と人民元の国際化」『問題と研究』第46巻第4号, 国立政治大学国際関係研究センター, 2017年12月, 25頁-51頁.
- ・“International Investment Positions, Gross Capital Flows, and Global Liquidity,” *The International Economy*, Vol. 18, 2015, pp. 1-19.
- ・「グローバル流動性とシャドー・バンキング・システム」『世界経済評論』第58巻第6号, 2014年11・12月, 41頁-45頁.

- ・「ケインズと国際経済—対外インバランスについての新しいアプローチ」ケインズ学会編・平井俊顕監修『ケインズは、〈今〉なぜ必要か?』作品社, 2014年2月, 216頁-227頁.
- ・「グローバル金融危機に日本と中国は関係があったのか?—グロスの資本移動と国際投資ポジション—」復旦大学日本研究センター第24回国際シンポジウム『冷戦後の日本政治・経済・社会体系の変化及び中日関係への影響—経済を中心に』pp.13-38, 2014年11月1日-2日.
- ・“Structural Changes of Global Economy Based on Gross Capital Flows and International Investment Positions,” *Report of Joint International Research Project by Japan, China and Korea, Impacts that the Structural Transformation of the World Economy Has on the East Asian Region*, The Economic and Social Research Institute (ESRI) of the Cabinet Office, Government of Japan, October, 2013.
- ・「グロスの資本フローと国際投資ポジションからみた世界の構造転換」平成24年度国際共同研究プロジェクト『世界経済の構造転換が東アジア地域に与える影響』内閣府経済社会総合研究所, 2013年4月.
- ・「グロスの資本フローと対外インバランス」『世界経済評論』第57巻第2号, 2013年3・4月, 20頁-24頁.
- ・「対外インバランスと富の移転: 日米における評価効果の非対称性」貝塚啓明・財務省財務総合研究所編『国際的マネーフローの研究: 世界金融危機をもたらした構造的課題』中央経済社, 2012年11月, 127頁-151頁.
- ・「グローバル・インバランスのグロス=ストック分析」原正彦編『グローバル・クライシス』青山社, 2012年11月, 197頁-213頁.
- ・「対外不均衡と評価効果の非対称性—『富の移転』に関する日米比較—」財務省財政総合研究所『「国際的な資金フローに関する研究会」報告書』2012年6月, 113頁-133頁.
- ・「金融危機とグローバルインバランス—米国の高レバレッジ型対外ポジションの脆弱性を中心にして—」『JBIC 国際調査室報』第3号, 2009年11月, 国際協力銀行, 17頁-30頁.
- ・「アメリカ経常収支赤字の持続可能性」『世界経済評論』第51巻第9号, 2007年9月, 31頁-40頁.
- ・「国際資本移動の理論と現実」本山美彦編著『世界経済論』ミネルヴァ書房, 2006年2月, 69頁-87頁.
- ・「国際資本移動研究の新動向」『経済論叢』(第176巻第3号), 2005年9月, 128頁-148頁.
- ・「アジア債券市場の可能性と諸問題」, Kyoto University Working Paper, J-39, 京都大学大学院経済学研究科, 2004年9月.
- ・「スティグリッツ vs IMF 論争」『エコノミスト』毎日新聞社, 2002年8月20日号.
- ・「国際資本移動と為替レート制度」『福井県立大学経済経営研究』第11号, 2002年3月, 1頁-20頁.
- ・「21世紀型金融危機をいかに阻止するか」『経済セミナー』No.551, 2000年12月, 26頁-29頁.
- ・「アジア通貨危機と円の国際化」京大-ソウル大共同セミナー報告書『経済学・経営学の再構想』1999年12月, 125頁-145頁.
- ・「国際通貨システムを考える: 頻発する通貨危機の最新情報と底流を知る」『経済セミナー』No.535, 1999年8月, 22頁-23頁.

- ・「『ケインズ案』の歴史的制約性と普遍的妥当性」『ケインズの総合的研究』平成6年度～平成9年度科学研究費補助金，基盤研究（B）（2）研究成果報告書，1997年3月，35頁-43頁。
- ・「ケインズとポンド残高（1）」『経済論叢』第160巻第4号，1997年10月，1-20頁。
- ・「ケインズとポンド残高（2）」『経済論叢』第160巻第5・6号，1997年11月・12月，1-27頁。
- ・「ケインズと戦後国際経済秩序の形成」『経済セミナー』No. 493，1996年2月，33-38頁。
- ・“The Keynes Plan for an International Clearing Union Reconsidered,” *Kyoto University Economic Review*, Vol. 40, No. 2, October, 1995, pp. 27-42.
- ・「金本位制の神話と現実」本山美彦編著『貨幣論の再発見』三嶺書房，1994年，149-171頁。
- ・「ケインズと第一次大戦期のスターリングードル外交（上）」『経済論叢』第152巻第6号，1993年12月，1頁-22頁。
- ・「ケインズと第一次大戦期のスターリングードル外交（下）」『経済論叢』第153巻第1・2号，1994年1・2月，23頁-43頁。
- ・「ケインズと1914年の金融恐慌」『経済論叢』第152巻第4・5号，1993年10月，25頁-48頁。
- ・「産業空洞化の金融的側面と実物的側面」上原信博編著『構造転換期の地域経済と国際化』御茶の水書房，1992年，181-98頁。
- ・「ケインズとインド」『法経研究』第41巻第3号，1992年11月，293-348頁。
- ・「ケインズと保護主義」『法経研究』第40巻第3・4号，1992年2月，350-86頁。
- ・「ケインズと国際収支の調整」『法経研究』第41巻第2号，1991年9月，104-32頁。
- ・「1970～80年台におけるSDR（1）」『経済評論』第38巻，第11号，1989年11月，37-54頁。
- ・「1970～80年台におけるSDR（2）」『経済評論』第38巻，第12号，1989年12月，31-43頁。
- ・「ドル暴落と米国への民間資金流入」『経済評論』第37巻第7号，1988年7月，40頁-54頁。
- ・「企業内貿易とトランスファー・プライシング」本山美彦編著『貿易論のパラダイム』同文館，1987年，155頁-178頁。
- ・「管理価格論とシカゴ学派」『経済評論』第36巻第9号，1987年9月，16頁-33頁。
- ・「経営者支配論の再検討」『思想』750号，1986年12月，90頁-106頁。

書評

- ・「書評 Markwell, Donald :*John Maynard Keynes and International Relations: Economic Paths to War and Peace*, Oxford: Oxford University Press, 2006.」『経済学史研究』50-1，2008年7月，107頁-108頁。
- ・「書評 田中素香・馬田啓一編著『国際経済関係論—対外経済政策の方向性を探る—』文眞堂，2007年」『世界経済評論』，2008年1月。
- ・「書評 ジョン・ウィリアムソン著 小野塚佳光編訳『国際通貨制度の選択：東アジア通貨圏の可能性』岩波書店，2005年」『経済セミナー』2005年12月号。
- ・「書評 A. M. Endres and A. M. Fleming, *International Organizations and the Analysis of Economic Policy 1919-1950*, Cambridge University Press, 2002」『経済学史学会年報』第45号，2004年6月。
- ・「書評 ダグラス・A・アーウィン著，小島清監訳，麻田四郎訳『自由貿易理論史』文眞堂，

1999年『経済セミナー』2000年3月号.

- ・「書評 山本和人著『戦後世界貿易秩序の形成—英米の協調と角逐—』ミネルヴァ書房, 1999年」『世界経済評論』1999年12月, 68-69頁.
- ・「書評 山本栄治『国際通貨システム』岩波書店」『証券経済研究』1998年5月, 147頁-159頁.
- ・「書評 福岡正夫『ケインズ』(東洋経済新報社, 1997年)」『経済セミナー』1997年10月号.
- ・「書評 伊庭みか子・古沢広祐編著『ガット・自由貿易への疑問』」『経済セミナー』, 1994年6月号.
- ・「書評 本山美彦『国際通貨と構造的権力』三嶺書房, 1989年[S・ストレンジの国際通貨論]」『経済評論』第39巻第6号, 1990年6月.
- ・「書評 Robert L. Heilbroner, The nature and logic of capitalism, Norton, 1985 [米国知識人の「マルクス経済学入門」]」『経済評論』第36巻第6号, 1987年6月.

新聞・辞典・その他等

〈新聞〉

- ・「対外投資の収益率 値上がり益の重要性高まる」『日本経済新聞』「経済教室」2016年6月30日.
- ・「(再考 日本の経常収支(下)) 対外資産の収益率向上を」『日本経済新聞』「経済教室」2014年3月27日.
- ・「経済天気図」『京都新聞』(1997年1月から1999年12月まで毎月1回).

〈事典〉

- ・伊東光晴編『現代経済学事典』岩波書店, 2004年(編集協力者および分担執筆).
- ・都留重人編『岩波小辞典 経済学』岩波書店, 2002年(分担執筆).
- ・新村出編『広辞苑(第5版)』岩波書店, 1998年(経済分野, 分担執筆).
- ・『知恵蔵』「世界経済」の章(櫻井公人との共著)朝日新聞社, 1990年版~1999年版.
- ・『朝日キーワード』朝日新聞社, 1993年~1998年(分担執筆).
- ・『朝日キーワード 別冊経済』1995年, 1998年, 2001年(分担執筆).
- ・「バーリ=ミーンズ」経済学史学会編『経済思想史辞典』丸善, 2000年(分担執筆).
- ・「バーリ=ミーンズ『近代株式会社と私有財産』」根井雅弘編『経済学88物語』新書館, 1997年.
- ・「伊東光晴」(西川潤編著『エコノミストを知る事典』日本実業出版社), 1996年.

〈高等学校・中学校教科書〉

- ・『商業経済』(都留重人・伊東光晴・浅野栄一との共著)実教出版, 1996年~1998年.
- ・『政治経済』(都留重人・伊東光晴・中村達也等との共著)実教出版, 1996年~2007年.
- ・『国際ビジネス』(伊東光晴・赤岡功等との共著)実教出版, 2004年~2007年.
- ・『中学生の社会科 公民』(伊東光晴・鈴木佑司等との共著)日本文教出版, 1996年~2007年.

〈web コラム〉

- 「ハイテク覇権国家による監視社会」『世界経済評論 IMPACT』2020.12.14.
- 「ポスト・コロナの大学教育改革：秋入学（ギャップ・ターム）導入の必要性」『世界経済評論 IMPACT』2020.08.31.
- 「アジアインフラ投資銀行（AIIB）へのヒアリング調査」『世界経済評論 IMPACT』2020.04.27.
- 「中国の不良債権問題，資本流出，人民元の国際化：中国人民銀行（PBOC）へのヒアリング調査」『世界経済評論 IMPACT』2019.12.02.
- 「中国の新経済と米中貿易戦争」『世界経済評論 IMPACT』2019.07.08.
- 「新自由主義と通俗道徳」『世界経済評論 IMPACT』2019.01.14.
- 「後退する人民元の国際化」『世界経済評論 IMPACT』2017.12.25.
- 「中国経済の減速と中国からの資本流出」『世界経済評論 IMPACT』2017.2.20.
- 「成熟債権国から債権取崩国へ向かう日本」『世界経済評論 IMPACT』2014.05.26.
- 「シャドー・バンキング・システムの2つの機能」『世界経済評論 IMPACT』2014.02.17.
- 「グローバル流動性とは何か」『世界経済評論 IMPACT』2013.10.14.
- 「ネットの資本フローからグロスの資本フローへ」『世界経済評論 IMPACT』2013.06.24.
- 「国際収支マニュアル第6版とグローバル＝ロイド指数」『世界経済評論 IMPACT』2013.03.25.
- 「ユーロ危機と対外インバランス」『世界経済評論 IMPACT』2012.10.22.

〈その他〉

- ・「金融危機後のグローバルインバランス」『高崎経済大学論集』第53巻第4号，2012年3月，99頁-101頁.
- ・「円高と投資立国」『旬刊経理情報』No. 1301，中央経済社，2011年12月20日号.
- ・「巻頭言 グローバル・インバランスとBW2仮説」『世界経済評論』2006年3月号.
- ・「巻頭言 アジア債券市場構想をめぐる議論」『世界経済評論』2004年8月号.
- ・「ステイグリッツ vs IMF 論争」『エコノミスト』2002年8月20日号.
- ・「グローバル化の進展と社会科教育」『社会科教室』日本文教出版，No. 30，2002年4月.
- ・「経済学を勉強し直すための最新ブックガイド」『エコノミスト』臨時増刊，2000年4月10日号.
- ・「経済のグローバル化と経済学の役割」『京都 TODAY』Vol. 88，京都新聞コミュニケーションズ，2000年1月.
- ・「円の国際化の必要性」『京都 TODAY』Vol. 85，京都新聞コミュニケーションズ，1999年10月.
- ・「ケルン・サミットと最貧国債務の削減」『京都 TODAY』Vol. 82，京都新聞コミュニケーションズ，1999年7月.
- ・「国際資本移動の自由化とIMF協定の改正」『京都 TODAY』Vol. 79，京都新聞コミュニケーションズ，1999年4月.
- ・「ユーロランドと地域政策」『京都 TODAY』Vol. 76，1999年1月.
- ・「アジア通貨危機と日本の金融恐慌」「じっきょう」No. 49，通巻337号，1998年4月，5頁～8頁.

- ・「調査 日本企業のカナダ進出の現状に関するヒヤリング調査」(近昭夫・浅利一郎・伊東暁人と
の共著)『法経研究』(静岡大学)第43巻第3号, 1994年11月.
- ・「EC統合の現状と問題点」『関西経協』1992年12月.
- ・「EC統合と欧州新秩序」『知恵蔵』1991年度版巻頭特集, 朝日新聞社.

学会報告・シンポジウム, 研究報告

- ・「グローバル政策ネットワークと国際機関—東アジア通貨金融秩序を中心に—(経済学の視点から): 一帯一路, AIIB, 及び人民元の国際化を中心に」日本学術会議主催学術フォーラム「グローバル政策ネットワークと国際機関—東アジア通貨金融秩序を中心に—」2019年6月28日, 京都大学.
- ・「リーマンショック10年後のグローバルマネー: 金融の出口政策と新興国・中国の対応」京都商工会議所議員総会講演会, グランドプリンスホテル京都, 2018年7月24日.
- ・「中国からの資本流出と人民元の国際化〜何が起きているのか?〜」一般財団法人アジア太平洋研究所(APIR)ワークショップ, グランフロント大阪 北館タワーC, 2017年8月3日.
- ・「中国からの資本流出・外貨準備減少と一帯一路の今後」東アジア経済研究センター, 中国経済シンポジウム2017「中国「一帯一路」構想の展望と挑戦」2017年11月18日, 京都大学.
- ・「アジア新興国からの資本流出: 中国を中心にして」『トランプ時代のアジア太平洋を読む〜経済連携・金融協力の行方〜』日本経済研究センター, 2017年11月6日.
- ・「世界の資本フローからみた金融危機とアジア太平洋」一般財団法人アジア太平洋研究所(APIR)「アジア太平洋地域の政治・経済的協力の在り方」第1回ワークショップ, グランフロント大阪 北館タワーC, 2015年6月26日.
- ・“Gross Capital Flows, International Investment Positions, and Global Liquidity,” 「武蔵経済セミナー」, 武蔵大学, 2014年11月18日.
- ・「グロスの資本移動と国際投資ポジションから見た日本の経常収支」中部経済連合会専門委員会, 2014年11月12日.
- ・「グローバル金融危機に日本と中国は関係があったのか?—グロスの資本移動と国際投資ポジション—」復旦大学日本研究センター, 第24回国際シンポジウム, 復旦大学, 2014年11月1日.
- ・“Gross Capital Flows, International Investment Position, and Global Liquidity,” 「日本国際経済学会第73回全国大会 会長講演」京都産業大学, 2014年10月26日.
- ・「国際的な資本フローからみた世界経済の構造転換」内閣府社会経済研究所「日中韓国際共同ワークショップ『世界経済の構造転換が東アジア地域に与える影響』」, 合同庁舎4号館共用第4特別会議室, 2013年2月18日.
- ・「『富の移転』に関する日米比較—対外インバランスなどの視点から」三菱総合研究所, 2011年12月22日.
- ・「対外不均衡と評価効果の非対称性—『富の移転』に関する日米比較—」財務省財政総合研究所「第2回国際的な資金フローに関する研究会」, 財務省財政総合研究所, 2011年11月1日.
- ・「金融危機後のグローバルリバランス」地域公共政策学会, 福井県立大学, 2010年3月22日.
- ・「米国経常収支赤字の持続可能性」日本国際経済学会第49回関西支部総会, 岡山大学, 2007年

6月9日.

- ・“New Approaches to International Capital Flows: A Survey of Selected Studies,” 第5回京都-ソウル大国際シンポジウム, 京都大学, 2005年12月14日, 『東アジア経済の発展と課題』2005年12月.
- ・「円の国際化とアジア危機」日本経済学会関西支部研究会, 神戸大学, 2000年1月29日, 『国際経済』第51号, 2000年.
- ・「アジア通貨危機と円の国際化」京都-ソウル大共同セミナー, 京都大学, 1999年12月19日, 京都大-ソウル大共同セミナー報告書『経済学・経営学の再構想』1999年12月.
- ・「ケインズと国際経済秩序」日本国際経済学会第35回関西支部総会, 下関市立大学, 1993年6月6日, 『国際経済』第44号, 1993年.

ディスカッサント

- ・「奥山聡子『グロスでみた国際資本移動の波と通貨危機の発生』へのコメント」日本国際経済学会 第9回春季大会, 高知県立大学, 2019年6月15日.
- ・「吉野直行『アジアの為替市場の変動とインフラ開発金融』へのコメント」日本国際経済学会第75回全国大会, 中京大学, 2016年10月29日.
- ・Comment on “Foreign Direct Investment-Trends, Impacts, and Government Support Policies,” The Second Economist Forum of the Export-Import Bank of China, the Export-Import Bank of Korea, and Japan Bank for International Cooperation, 京大会館, 2010年5月14日.
- ・「大田英明『IMF改革の現状と課題:本当に変わったのか?』へのコメント」日本金融学会2009年秋季大会, 香川大学, 2009年11月7日.
- ・「伏見一彰『内外価格差と為替相場との関連—外為市場の円過大評価の習性—』へのコメント」日本経済学会第43回関西支部総会, 同志社大学, 2001年6月1日, 『国際経済』第53号, 2002年.
- ・「富田秀英『直接投資と技術移転(日米比較)』へのコメント」日本国際経済学会第49回全国大会, 立命館大学, 1990年10月20日, 『国際経済』第42号, 1991年.
- ・「高増明『国際貿易における不等価交換:理論的展望』へのコメント」日本国際経済学会第45回全国大会, 広島大学, 1986年10月11日, 『国際経済』第38号, 1987年.

一般向け招待講演

- ・「リーマンショックと何であったのか:世界金融危機10年後のグローバルマネー」鴻鵠会(京都大学公共政策大学院同窓会)講演会, 学士会館, 2018年7月14日.
 - ・「広島市立舟入高等学校 進路ガイダンス(出張講義)」広島市立舟入高等学校, 2018年7月5日.
 - ・「世界経済と金融の現状・今後の展開」伊丹中央公民館市民講座「すいすい分かる世界経済」伊丹中央公民館2017年1月27日.
 - ・「世界金融危機後のグローバルマネーの行方:おかねの流れから見る世界経済」京都大学 静岡講演会, ニッセイ静岡駅前ビル, 2017年2月4日.
- 「現代の国際資本移動:米・EU・東アジアを中心に」大阪能率協会アジア・中国事業支援室, 11

- 月例会, 大阪能率協会, 2016年11月28日.
- ・「金融危機はなぜ発生するか? : 「裁定」と「投機」」京大×河合塾講演会, 河合塾大阪校, 2015年5月30日.
 - ・「ユーロ危機と対外インバランス」京大同窓会経済懇話会, 京大東京オフィス, 2013年1月19日
 - ・「金融危機後のグローバルインバランス」高崎経済大学経済学会, 平成22年度第3回学術講演会(高崎経済大学, 群馬県高崎市) 2010年11月29日.
 - ・「金融危機後のグローバルインバランス」京都大学経済学部同窓会, 平成22年度総会(京都大学百周年時計台記念館) 2010年11月13日.
 - ・「高校の「政治経済」「現代社会」教育と大学の「経済学」教育の連続と断絶: 日本の経済学教育の「ガラパゴス化」」滋賀県高等学校社会科教育研究会研修会(滋賀県立膳所高等学校, 滋賀県大津市) 2010年11月9日.
- 「国際経済学の考え方」灘高等学校土曜講座(灘高等学校, 兵庫県神戸市) 2010年6月5日.
- 「金融危機とグローバルインバランス」静岡大学経済学会, 2009年12月19日.
- 「金融危機を経済学的に考える」京都大学経済学部特別講演会, 駿台予備学校名古屋校, 2009年7月31日.
- 「経済学研究の新しい動向と求められる入学者像」代々木ゼミナール平成20年度「京大研究会」(代々木ゼミナール大阪校, 大阪府吹田市) 2008年10月23日.
- 「ユーロ導入後のEUの地域政策: EUにおける「収斂」(convergence)と「結束」(cohesion)」第35回 全国昭和市场会講演会, プラザ萬象大ホール(福井県敦賀市), 2002年10月25日.
- 「世界はいま? 日本はいま? —地球経済時代の明日を読む—」福井ライフ・アカデミー専門講座「社会科学講座」, ユー・アイ福井(福井県福井市), 1999年7月3日.